

授 業 科 目	日本語表現法 I (作文、論文)		電気電子工学科	
	Japanese Language Expressions I (Writing)		科目コード	33006
単 位	必修 1 単位	科 目 区 分	基本教育科目	学年・開設期
担 当 教 員	奥山 史亮 講師 非常勤教員 秋田 松年			

授業の概要および計画

1. 授業の目的

大学生活における知的活動でも、社会生活においても必要となる基本的な日本語の運用能力を身につけることを目的として、日本語による作文や論文などの文章作成に関する基本的な能力を養成する。良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術について学習する。また、社会人として身につけておかなければならない基礎的な語彙力も身につける。

2. 授業の方法

各回の授業の前半は言葉の知識を身につけるための問題演習を、後半は文章力をつけるための知識を学んだ上で応用演習課題を行う。またレポートを作成により、アカデミック・ライティングの基礎を習得する。その他に中間テスト、期末テストを設け、それまでに学んだ知識の確認テスト問題に取り組む。

3. 授業計画

各回のテーマは次のとおりで、項目の後の数字が教科書の各節に対応している。各回の事前の準備が必要な項目(予習)、および授業終了後に再度確認すべき内容(復習)を【 】内に記載している。予習復習項目については、A4 レポート用紙 1 枚またはノート 1 ページにまとめること。

- 第 1 回 オリエンテーション 日本語表現法 I 概論【復習：テキスト「はじめに」の見直し(1 時間)】
- 第 2 回 語彙力をつける演習 1、文章の書き方 (1)
【予習：語彙テキスト 1 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 1 章～3 章見直し(30 分)】
- 第 3 回 語彙力をつける演習 2、文章の書き方 (2)
【予習：語彙テキスト 2 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 4 章見直しと課題修正(30 分)】
- 第 4 回 語彙力をつける演習 3、要約文の書き方 (1)
【予習：語彙テキスト 3 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 9 章見直し(30 分)】
- 第 5 回 語彙力をつける演習 4、要約文の書き方 (2)
【予習：語彙テキスト 4 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 11 章見直し(30 分)】
- 第 6 回 語彙力をつける演習 5、要約文作成演習
【予習：語彙テキスト 5 章演習問題(30 分)】【事前準備：要約文書き方見直し(30 分)】
- 第 7 回 中間試験：言葉の知識の確認テスト 1 回、提出課題の返却と講評
【事前準備：語彙力テキスト 1 章～5 章の復習、および問題の解き直し(1 時間)】
- 第 8 回 語彙力をつける演習 6、レポートの書き方 (1)
【予習：語彙テキスト 6 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 7～8 章見直し、資料整理(30 分)】
- 第 9 回 語彙力をつける演習 7、レポートの書き方 (2)
【予習：語彙テキスト 7 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 12 章見直し、資料整理(30 分)】
- 第 10 回 語彙力をつける演習 8、レポートの書き方 (3)
【予習：語彙テキスト 8 章演習問題(30 分)】【復習：テキスト 13 章見直し、資料整理(30 分)】
- 第 11 回 語彙力をつける演習 9、レポート作成演習
【予習：語彙テキスト 9 章演習問題(30 分)】【事前準備：資料の整理とテキスト見直し(30 分)】
- 第 12 回 語彙力をつける演習 10、レポートの推敲と提出
【予習：語彙テキスト 10 章演習問題(30 分)】【事前準備：課題修正(30 分)】
- 第 13 回 期末試験：言葉の知識の確認テスト 2 回、手紙文の書き方
【事前準備：語彙力テキスト演習問題の解き直し(30 分)】【復習：テキスト 17 章見直し(30 分)】
- 第 14 回 提出課題の返却と講評
【復習：確認テストの解き直しと、返却課題修正(1 時間)】
- 第 15 回 日本語表現法 I のまとめと評価
【復習：返却課題の見直し(1 時間)】

■教科書：「日本語表現法」(ワオ・コーポレーション)
「ステップアップ日本語講座」(東京書籍)

確実な単位修得・学修の質の保証のために**4. 達成目標**

この科目は学科のディプロマポリシー（C）に対応する。

以下の5項目が具体的な達成目標である。個々の目標を達成して、言語能力を高めることで、大学や社会で必要とされる総合的な文章表現能力を身につけることが最終的な目標である。

- ① 大学生・社会人に求められる基礎的な言葉の知識を身につけ、それらの意味を理解し、かつ正確に書くことができる。
- ② 文章表現のルールやマナーを習得し、自らの考えを的確に言い表すための表現方法を身につける。
- ③ 文章構成法などの作文を書く上で土台となる知識・技法を身につけ、自らの考えを効果的に表現する方法を身につける。
- ④ 大学生活に必要な科学技術系の文章作成方法を身につけ、論理的な文章を書くことができる。
- ⑤ 言葉の知識や表現の方法、文章構成法などの知識を統合して、与えられた課題に対し、自ら考え、的確な構成や表現を用いて読み手に正しく伝わる文章を書く能力を身につける。

これらの達成目標のうち、①は「語彙力をつける演習」、②～⑤はレポートの書き方の講義とレポート作成を通して学習し、中間試験と期末試験でそれぞれの知識の定着を図る。

5. 履修に当たっての留意点

大学や社会が求める文章表現能力を身につけるには、単に回に1度の講義に出席し課題をこなすだけでは、決して十分とはいえない。常日頃から意識して語彙を増やし、読書の習慣や作文の習慣をつけて表現力を磨く努力をすること。各提出課題については添削等を通じてフィードバックする。

6. 試験および成績評価の方法

この科目は講義および問題・作文演習によって行われる科目であり、成績は提出課題（10%）と講義内で行う2回のテスト（40%）とレポート課題（50%）によって評価する。なお、すべての授業に出席しなければならない、成績評価を受けるためには講義回数数の2/3を超える出席が必要である。

この科目は活性化科目であり、具体的な評価項目、および評価手段は次のとおりである。

評価対象能力	評価手段配点比率				対象能力別配点
	提出課題	中間テスト	期末テスト	レポート課題	
知識力	-	10	10	20	40点
応用力	10	10	10	30	60点
展開力	-	-	-	-	-
計	10	20	20	50	合計100点

【知識力】

「個々の知識/スキルの量と正確性」－十分な語彙力・正しい作文の知識を身につけているか。

「知識体系の獲得度」－文章によつて的確に表現するための知識を身につけているか。

【応用力】

「解析力」－課題に対して自分の考えを深く掘り下げて考えることができるか。

「実践力」－課題に対して深く分析・考察し、論理的かつ的確に表現することができるか。

「構成力」－科学技術系の文章術の知識を応用してレポート作成をすることができるか。

■参考書：授業内で、適宜紹介する。